

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500297		
法人名	社会福祉法人 百徳会		
事業所名	グループホーム 佐伯の太陽		
所在地	大分県佐伯市駅前1丁目1番11号		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=4490500297-">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=4490500297-</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府老番館1F
訪問調査日	平成31年2月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は佐伯市の中心部に位置した複合施設の4階にあり、JR駅やスーパー、ドラッグストア利用に便利な立地条件に恵まれた陽当たり抜群、災害時避難所に指定された耐震設備の完備された構造となっている。生活を支える柱として訪問看護ステーション、併設のクリニック、母体の佐伯中央病院からの24時間365日の途切れのない医療連携と支援が得られる体制の中で自立支援に向けた健康管理や機能維持に努め、毎日を安心して安全に暮らせる環境が整っている。利用者の最高齢者は106歳、100歳以上の利用者は3名居り、当事業所の利用者の高齢化と重度化も全国のGHの実情に等しく推移している。地域の中で地域と共に、理念に立ち返りながら日々の暮らしの支援に取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市の中心部に位置し交通の便がよく地区の避難所に指定され、防災機能が行き届き、消防署・行政・地区民等と一体となった訓練に取り組み、利用者が安全に暮らせる体制が整っています。医療との連携が優れ健康・機能訓練など利用者本人に適したケアに取り組み、食事支援については、常に利用者の体調に配慮し、嗜好に合った個別支援に取り組み、和気あいあいの時間を楽しんでいます。支援の要である職員は明るく、協調性に富んで積極的に勉強会・研修に取り組む姿勢が見受けられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を唱和し日々の業務の中に理念を意識して利用者に向き合い、自ら提供したサービスを振り返り見つけ直し次の実践へとつなげている。	地域密着型サービス事業の役割を良く理解し、法人全体のものから、事業所に応じた理念を策定し職員で共有し、それに基づいた支援に取り組まれています。職員採用時に事業所の理念を説明・理解出来る取り組みがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開設記念、毎月のお楽しみ会、夏祭り、敬老会、クリスマス会等の行事開催を地域に向けてお知らせしている。ボランティア団体の慰問や幼児、学童の訪問も定期的であり地域のかたと交流している。	自治会に加入し地域の情報を得ながら、積極的に運動会・行事等に参加、夏祭り等の施設の行事にも案内し、双方向の交流がなされています。園児・小・中・高校生によるボランティアも活発に取り組まれています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の職場体験や初任者研修、福祉系高校の介護福祉士国家試験受験過程に必須である施設実習の受け入れを積極的に行い認知症支援の方法や事業所の活動への理解を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に一度開催している。利用者の現況や2か月間の事業所の活動状況と利用者の生活に関わるサービスの向上にむけた取り組みを報告している。	6名による推進委員で計画的に開催され、事業所の課題・自己・外部等の評価報告をしています。地域の現状・市民の意見等双方向による情報交換がなされ、改善すべき事項が発生したときは、管理者・職員全体で解決するシステムが構築されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広報誌やローカル通信で発信される各種制度利用に関するお知らせには解読不明な部分もある。その折は直接担当者に連絡を取り、事業所の実情を伝え、申請に必要な書類、添付物等を聞いたり、適切なアドバイスを頂くようにしている。	生活保護法・介護保険法・福祉サービス法の改正などが生じた時は、積極的に協議がなされ、認定更新など機会があれば、利用者の暮らしぶりや新たな課題・ニーズが発生したときは、一緒に対応・相談に取り組みがなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が中心となり禁止対象となる具体行為や拘束によって利用者が受ける身体的・精神的な弊害についての勉強会等を定期的に開催、事業所でも施錠を含めて拘束をしないケアに努めている。	毎月1回身体拘束防止委員会を開催し、事業所の取り組み、情報を共有し、行動制限をなくし利用者がゆっくり生活できる環境づくりがなされています。外出に際し、周辺は密着した住宅は少ないですが、見守り・声かけなどの連絡体制が出来ています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外で開催される「虐待防止」の研修は勿論のこと、「職員のメンタルヘルス」、「接遇・マナー」等の研修にも重きを置き、利用者や職員、職員同士の関係性にも留意し、全員で順守に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護事業についても定期的に学びの機会を設け理解を深めていきたい。 必要と考えられる対象者には活用するための話し合いや関係機関への適切な橋渡しをしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明には時間をとって丁寧に説明している。説明後不明な点やサービス開始後も利用者や家族の不安や意向の把握に努めている。又、制度の改定毎に趣旨をお知らせし説明、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自身では上手く表現できない利用者も多く居る。日頃から利用者の言葉や態度から思いを察する努力をしている。ご家族には面会時に近況を伝え、それについての家族の思いや意見を聞き取り全スタッフで周知し反映に努めている。	重度化に伴い利用者の意向・要望が伝えにくい場合、利用者の顔色・表情を見つめながら支援に努め、苦情・相談は介護保険係など、事業所外に相談できることを、家族へ書面で知らせています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しては朝夕の申し送り、担当者会議、カンファレンス等での職員の提案や意見が運営やサービスの質の向上に反映されている。	ミーティング、勉強会等通じ、職員の発想・支援の中で感じたことを運営に活用できる環境づくりに配慮され、共有するシステムが構築されています。利用者の受け入れについても、報告・担当者選定など相談・対応がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況、目標や実績の把握に努め、職員が向上心を持って働けるよう個々における職能評価を行っている。健康診断や就業規則に則った職場環境の整備を推し置いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場で共に考え助言する人材(プリセプター)の配置や法人内外の研修の開催等働きながら学べる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に法人内の他事業所の職員との人事交流が行われる。この交流によって日頃気づけない視点からの建設的な意見がもらえ、日々のサービスの向上や職員育成に役立つ実践的な取り組みにつながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に会い、挨拶を交わし世間話をしながら声のトーンや表情やしぐさから伝わってくる感触で支援に対する要望や心の動き、初期の手ごたえを察知し受け入れの体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活の様子や趣味、価値観、直近の様子を聴取していく中で家族の思いに耳を傾け事業所として対応できる事を伝えながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の改善に向けたサービスの提案を本人、家族の意向を聞き取りながら行っている。他のサービスとの比較やその後の状態変化に伴うサービスの転換の選択肢についても説明をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意分野で力を発揮してもらい“持ちつ持たれつ”という気持ちでお互いに感謝しながら過ごしている。職員が利用者から将来の事をアドバイスを受けたり、励ましてもらったりする場面が生活の中にあり共同生活の在り方の成果が実感できる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を報告し家族の意向を踏まえながら両者の思いが結びつくような働きかけを工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同郷の友人、知人の面会を家族にお願いしたり、知人宅への外出の支援を家族が担ってくれたり、これまでのつながりが途切れないような働きかけに努めている。	本人に関わり合いのある人の把握や、生活の延長上にあった人に、電話・手紙(年賀状)等で、双方向の交流が出来る支援に取り組み、家族・親戚への外出支援にも積極的な対応がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮し利用者が互いに敬い、助け合ったり、声をかけ合ったりという関わり合う力を発揮できる場面の工夫に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特殊な疾病のため医療機関へ入院となりサービスが終了したケースに対し、利用者の定期受診の際に病室を訪問し談話をしたり、そのかたの入院中の病棟で音楽を通した慰問を行い支援交流をした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの言葉や言葉にしづらい思いを表情や行動からもくみ取り、家族に相談しながら意向に寄り添えるように努めている。	管理者・担当職員等が利用者本人・家族と接しながら、嫌なこと・楽しみなことを把握し、して見たい事・望んでいる事など、意向に添った取り組みがなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のバックグラウンドに関する情報は全体像をつかむ手がかりになり得る。どんな小さな事でも情報を伝えてもらいチームで共有し生活支援に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできる力、わかる力を暮らしの中で見つけチームで共有している。出来ない部分を補い、出来る事に注目しつつ全体の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングを行い、現状をつかみカンファレンスにあがる本人や支援の関係者からの意向や気づき、アイデアを計画に反映させながら計画を作成している。	利用者・家族等の意向を受け入れ、担当職員による日頃の支援の中から感じる生活状況の課題を把握し、本人本位の計画作成がなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルにはバイタルに関する事その他、食事、水分量、排泄、内服薬、介護計画を実践しての日々の生活の記録等を記している。全ての職員が記録に携わり情報の確認と蓄積に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイケアのセラピストや運動実践士に機能低下予防に効果的な運動のアドバイスを受け、運動不足の解消や機能維持、介護予防に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が在宅生活時代に培ったご縁で開設記念行事や敬老会、クリスマス会にボランティアの慰問をしてくださる舞踊の社中や保育園や小学校の学童との交流会等地域とのつながりがある。移動図書館の利用も楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医で適切な医療が受けられるようになっている。車椅子の乗り入れが困難であったり心理的に受診をあきらめていた受診困難な利用者も訪問診療によって適切な医療が受けられるようになった。	希望するかかりつけ医となっています。訪問診療や訪問看護、協力医療機関に歯科医がいることから歯科の訪問診療もあり医療支援は大変充実しています。協力医療機関とは24時間体制で常に連携が整えられ、通院等では家族の協力も得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの提携で日頃の健康管理や医療面の相談、助言、対応等を気軽に相談できる関係ができています。また、提携医療機関との連携も密にとれる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の医療機関との入退院時の情報交換、連携のシステムが確立されておりそのシステムに則り入退院の手続きを速やかにやっている。できるだけ早期にホームの生活に復帰できるように相談や調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や状態悪化時には重度化した場合に事業所が対応できる事やサービスの転換等の選択肢を説明し状態変化に伴う意向の確認もその都度行い、確認書を頂いている。医療スタッフを交えケアの方向性を協議し臨機応変な支援に努めている。	重度化や終末期での施設として出来ることの説明を、契約時や状態の変化に応じて本人・家族等と話し合いながら進めています。職員間で研修や経験を得て情報を共有し、医療スタッフも交えて共にチームで支援できるための体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時はマニュアルに沿って概ね全員が対応できる。応急手当や心肺蘇生(AEDの使い方)の研修に定期的に参加し実践力を養っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難施設に指定されている。地震、津波想定での地域の住民との合同避難訓練を実施した。施設の構造を理解して頂き、今後も有事の際に備えた定期的な合同訓練等を継続していききたい。	地域の方だけでなく、市や県の職員も参加しての合同避難訓練を実施しています。その際地域の方とお互いがより協力していけるよう、施設としての情報や様々な立場の方々の意見を聞きながらよりよい体制を築くため積極的に取り組まれています。	地域の避難施設として、施設と地域の更なるよりよい関係と体制づくりに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誰が聞いても違和感の無い言葉かけや対応、配慮を心がけている。誇りやアイデンティティは大切にしていきたい。言葉かけやプライバシーの保護には常に重きを置き職員間で指摘しあい、振り返り互いのモラルを高めていきたい。	職員間で常に意識して、利用者が気持ちよく過ごせるよう言葉かけや様々な処遇に努めています。定期的な研修や、職員間でもお互い指摘し合える関係が築かれ、利用者が気持ちよく過ごせる環境づくりに取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	うずもれてしまいがちな本人の希望や願いを伝える力を意図的に引き出せるように表情を読み取ったり短い言葉で返せるように工夫して問いかけたり自分の意思で決めれる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活の流れはあります。その日の体調や気分に合わせて配慮しながら個性を大事に利用者の行動や日々の過ごし方に職員が合わせ支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意向や生活習慣に合わせて支援をしている。 誕生日にお化粧をしておしゃれをして写真撮影をしたり家族との記念日の外出時にもよそ行きの洋服で特別な機会を楽しんでもらえる支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設提供食での食事支援です。今年度はおやつ(スイーツ)作りに毎月取り組んでいる。材料と一緒に丸めたり包んだり焼いたりトッピングしたり皆で作る楽しみ、それを食べる喜びが個々の生活の力となるよう支援している。	嗜好調査を定期的実施され、利用者の希望も取り入れた食事になっています。おやつ作りは、希望を聞きながら一緒に作って、食べるのが利用者の楽しみになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は毎日毎回管理している。食事形態や嗜好の把握に努め、より安定した食生活を維持できるよう、個々に応じた必要な介助を行いながら栄養の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に応じた口腔ケアを毎食後に実施している。義歯の衛生管理は勿論のこと、ケア用品の消毒や交換も定期的に行い口腔環境保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々の排尿間隔や排便の有無、を把握、管理している。尿や便の色や臭い形状もチェックし、体調の変化を把握し個々の力や排泄パターンを検討し自立に向けた支援につなげている。	排泄チェック表は常に職員が把握でき、処遇に生かせるよう体制が整えられています。利用者の体調を考慮しながら、自立に向けた支援や自然な排泄を促すための、運動や食事の支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分量をチェックし食事の際のお茶以外にも嗜好に応じた飲料を提供し十分な水分摂取に努めている。飲料の甘味料には腸内環境を整えるオリゴ糖を用い、昼前とおやつ前にはラジオ体操に取り組み便秘予防にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望や気分に応じて支援をしている。ゆっくりとリラックスして入浴していただけるように入浴剤を入れたり、ゆず湯等雰囲気を変えてサービスを提供している。入浴中に思わず珍話や美談が聴けることもある。	体調や気分等に配慮しながら、準備出来る利用者と一緒に準備し、入浴剤等の工夫をしたり個々の体調に合わせながら保湿に気を配り、楽しむだけでなく個々にあった支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や睡眠は生活習慣やその日の体調に応じて個々に支援している。夜間は良質な睡眠がとれるよう、室温や照明、騒音等にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の処方箋は個々のファイルに綴じ、直ぐに確認できるようにしている。服薬支援では準備・服薬に至るまでの過程に何度もチェックを入れ、複数の目で確認作業を行い誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり巻きや洗濯物たたみは『ここに持っておいで・・・』とこころよく引き受けて手早くたたんでくれる。お茶碗洗いやほつれた衣類のお針仕事等、できそうな事を頼み、感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や個別の帰省の支援、自宅周辺へのドライブを計画し実施している。個人の自宅周辺を散歩している途中にご近所のかたとの再会があり昔のエピソード等も聴け支援の手がかりになった。	利用者の日常的な外出の希望は少ないものの、体調や天候等を考慮しながら近くを散歩したり、季節ごとのドライブや利用者の希望から、自宅周辺の外出など柔軟に対応できる体制が整えられています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の価値や金銭感覚のある人でも個人での管理は難しくなっている。家族との外出の折にお買い物をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文字を書ける人には家族への宛名書きとコメントをお願いした。大きな字で見本を作り、一文字一文字声に出しながら一時間をかけ完成した年賀状を受け取る家族の事を思い浮かべ希望に沿った支援ができた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の中に季節感を感じ四季折々の行事ごとにちなんだ壁面アートは利用者と職員とで取り組んでいる。利用者の作品を展示したり、家族が作成した手芸作品もホームの所々に飾っており生活の彩りとなっている。	利用者がそれぞれに過ごし易いよう常に工夫された共用空間づくりとなっています。利用者と職員で作られた季節ごとの作品は、皆さんで取り組まれている様子が伝わる立派な作品になっています。個々の利用者の生活スタイルに合わせた、明るい共用空間づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	18人18色の個性、生活習慣を持つ利用者の調和力に配慮しながら、独りになれたり気の合う利用者同士で過ごせたり場面場面にに応じて柔軟に居場所を工夫して対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある使い馴染んだ家具等があれば持ち込んでもらいプライベートな空間で自由にくつろいでもらったり、お茶を飲みながら家族と談笑するスペースや時間を設け支援をしている。	利用者がそれぞれ馴染みのものを持ちこみ居心地いい空間を作られています。それぞれ居室ごとの温湿管理等を、家族の協力も得ながら、利用者が安全に安心して過ごせるよう常に配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の位置がわかり辛くなっている利用者には部屋の前に目印を置き、ひとめで部屋が分かる工夫をしたりトイレの扉に“トイレ或いは便所”と表示し困惑する事を解消しながら自立した生活が送れる様に支援をしている。		